

日本心理学会第81回大会 公募シンポジウム(SS-063)
宗教心理学的研究の展開(14)
ー超高齢社会における宗教性／スピリチュアリティー
(2017.9.21)

日本における老年学、医療、看護、 介護領域でのスピリチュアリティ 研究の状況と今後の展望

中部学院大学人間福祉学部
大 橋 明



今回いただいたテーマ

- 老年・高齢者を対象とした日本での「宗教性」「スピリチュアリティ」研究は進展しているのか、一時期の盛り上がりは落ち着いてしまったのか
 - 現状についてのご報告
- 今後の展望
 - どのような研究、方向性が期待できるか

宗教性／スピリチュアリティの定義

宗教性

宗教意識(信念、知識、情緒)と宗教行動(振る舞い)を包括する枠組み(松島, 2011)

向宗教性、靈魂觀念、加護觀念、祖先崇拜、近代合理主義(金児, 1993)
神仏の関与的存在、宗教肯定、自然・神秘(西脇, 2004)

スピリチュアリティ

人間が生まれながらにしてもつ機能で、人間存在の意義に関わり、生きる力を支える土台(生田, 2012) ？

生きる意味や目的、よりどころとなるもの、他者とのつながり、自然や神など自分を超えたものの存在、死に対する準備など(西山, 2015)

宗教性／スピリチュアリティに関する 論文の抽出

- 目的

- 高齢者を対象とした宗教性／スピリチュアリティの研究を概観し、その問題をまとめる

- 方法

- 国立情報学研究所Cinii、医学中央雑誌、メディカルオンライン、社会老年学文献データベースDiaLにて検索（1999年～2016年）
- 「高齢」または「老年」を含み、かつ①「宗教性」、②「スピリチュアリティ」または「スピリチュアル」を含む論文に限定

研究量の年次変化

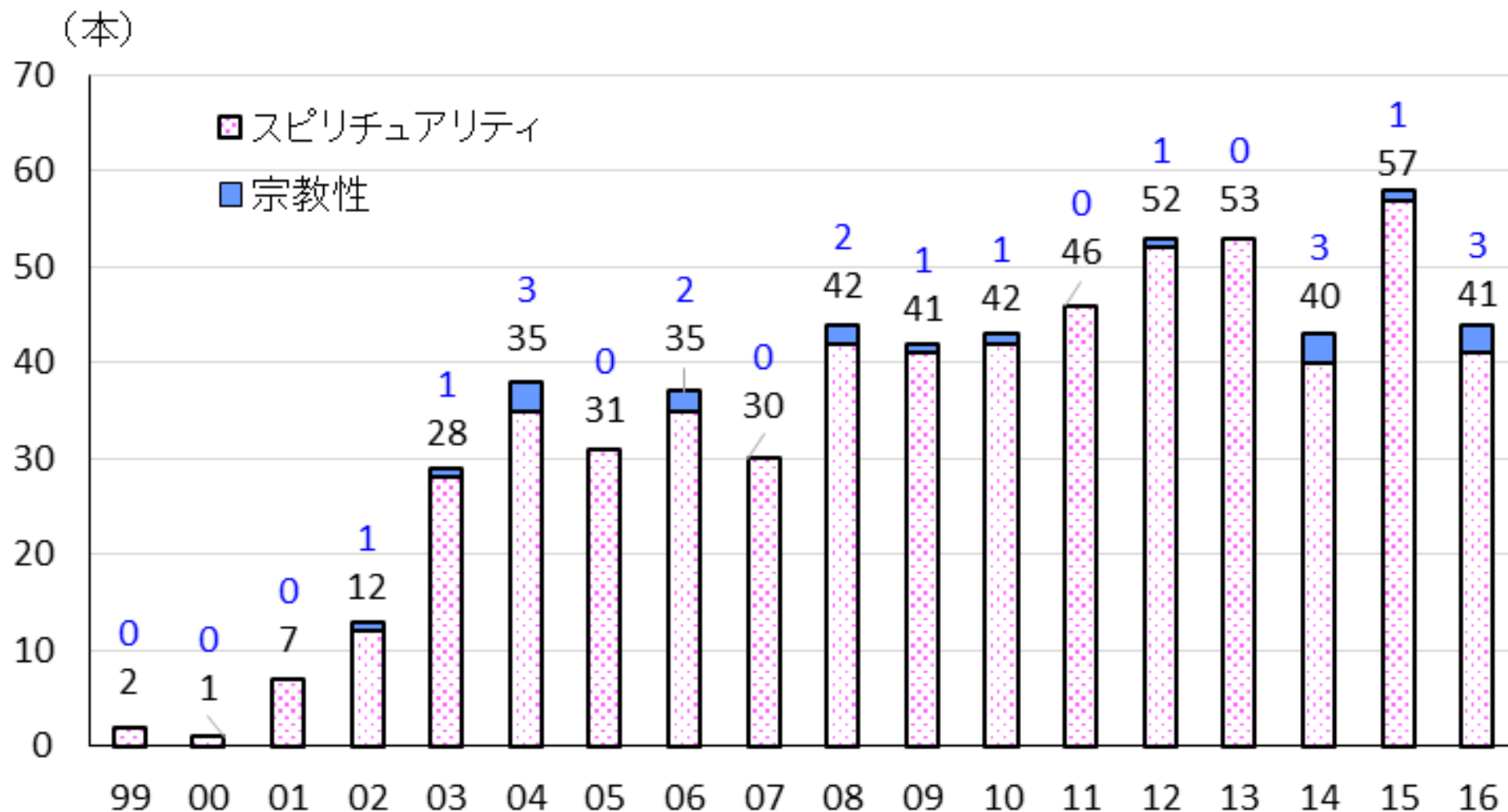


図1 「高齢・老年」で検出された論文数・学会発表数

(例) (高齢 or 老年) and (スピリチュアリティ or スピリチュアル) で検索

* 宗教性とスピリチュアリティの両方で抽出したものは「宗教性」にまとめた

* 内容を確認できたもののみ入れています

発表形式の年次変化

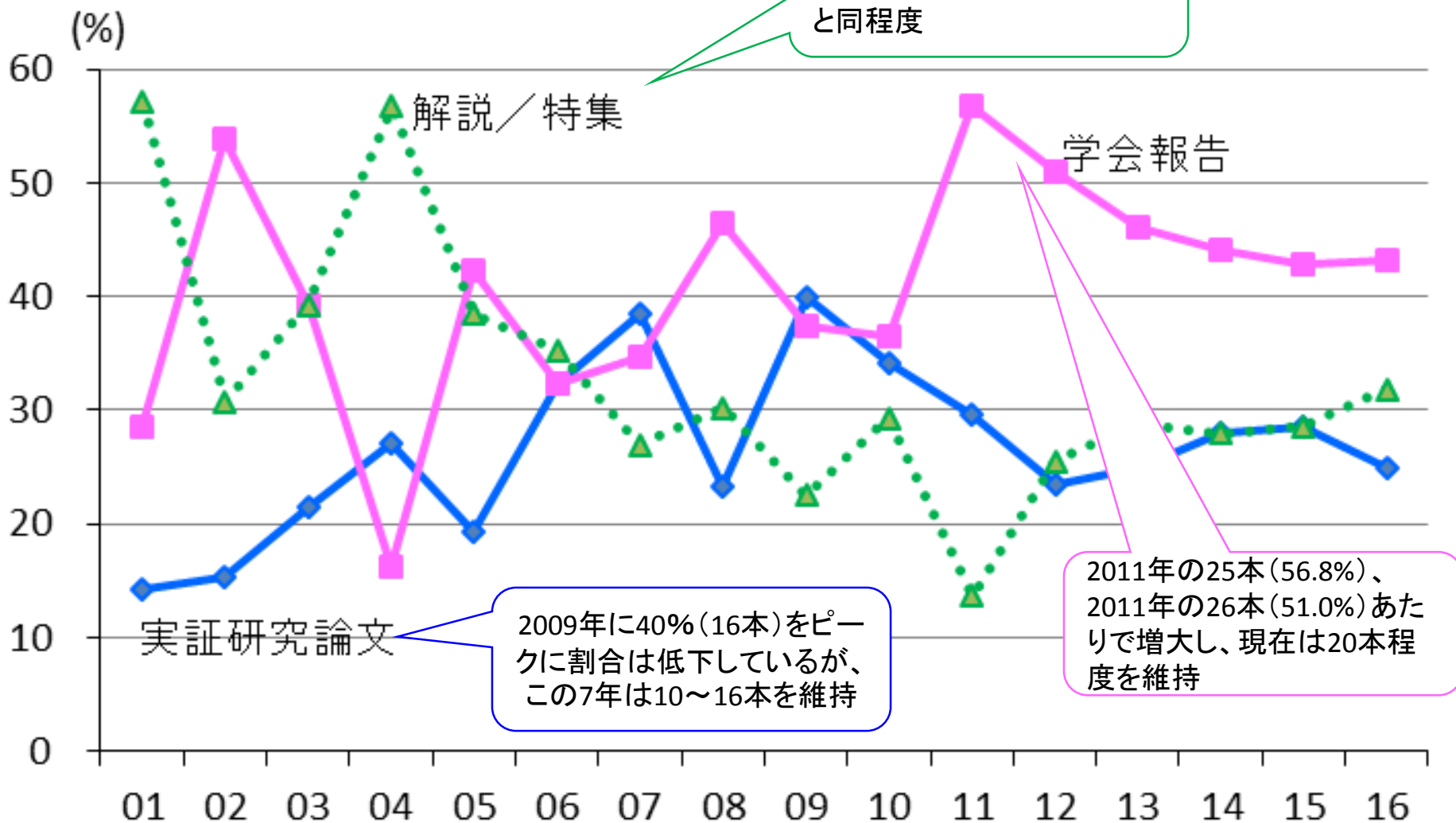


図2 各年次における研究公表の割合 (1999～2016)

* 内容を確認できたもののみ入れています

実証的研究の内容①

- 事例・症例の報告が圧倒的に多い
 - 近年は面接や質問紙によるスピリチュアリティ調査も
- 末期患者（特にがん）に対する研究が半分近く
 - 近年は一般高齢者や他の病気に罹患した高齢者のスピリチュアリティに関する研究も増加
 - 死別した配偶者のスピリチュアリティも（生田, 2008, 2011, 2012, 2014, 2016; 福田, 2015; 宮林, 2016）
 - 認知症高齢者や要介護高齢者を対象にしたものも（遠藤他, 2011; 東野他, 2012; 大和田, 2012, 2015）

実証的研究の内容②

- 高齢患者のスピリチュアリティの「内容・意味」に加え、「どのような支援が有効か」も増大
 - 「内容・意味」: 末期→在宅高齢者→配偶者遺族・認知症高齢者
 - 「支援」: サマリーシートの活用、音楽療法、園芸療法、回想法、ヨガ、ディグニティセラピー(成田他, 2010; 井田他, 2011; 池島他, 2013; 皆川他, 2014, 2015)
- 尺度を用いた関連要因の検討も
 - 年齢が高い、信仰がある、近所づきあい、IADLなどが良好であるとスピリチュアリティも高い(三澤他, 2010, 2013, 2015; 長尾, 2013; 楠木他, 2015)
 - スピリチュアリティが抑うつリスクを下げる(豊里他, 2012; Toyosato et al., 2016; 神谷他, 2013)

「宗教性」に関する研究は少ない？

『宗教を心理学する』(松島・川島・西脇, 2016)に
記載された「宗教性」を匂わす？言葉を抽出

宗教、信仰、傾倒、無宗教、教団、宗教団体、無神論、宗教感、敬、易、占い、呪い、崇り、お守り、おみくじ、お札、お祈り、お報、墓参、初詣、祭り、慣習的行動、神棚、仏壇、参拝、教義、教典、回心、祈り、礼拝、心の平安、安心、癒し、カキ、チャン、供養、非業の死、守護、盆、彼岸、地蔵、地蔵盆、六地蔵、袈裟、護国神社、冥婚、人、殉教、十字架、救済、聖人、崇め、霊魂、念誦、黙禱、焼香、読経、祭壇、南無阿弥陀仏、道、キリスト教、向心的、新婦、牧師、カトリック、会、教義、教祖、祖師、宗旨、教化、相対性剥奪、イベントの経験、宗教感尺度、向宗教性、加齢、世界、生まれ変わり、たたり、ばちが当たる、偶像、ホーリネス、出雲大社教、天理教、PL教団、創価学会の意志、おかげ、感謝、黙想、奉仕、自己制御、最現、修験道、無宗教、先祖伝来、創唱宗教、宗教性、自己存在、姓名認識、ちっぽけ、おぼつかなさ、水、斎事(いみごと)、縁結び、ご神徳(神様のはからしめ)、ロハス、聖なる物語(人間を超える力に身をまかすイメージ(尺度)、霊能者、座禅、滝行、遍路、巡礼、マーケット(スピマ)、コーラン、針供養、信仰様行動、スマス、供養、ユダヤ・キリスト教文化、霊性、仏性に関する9つの構造要因(超越、人生の意味と目的、スピリチュアリティの実り)、人生における辛い経験、スピリチュアルの存在意義、超越性)、さらに3つを加える(知恵・叡智的信念尺度)(人生の意味、因果応報、心象の現実

(例) 宗教、信仰、無宗教、教団、宗教団体、無神論、先祖、呪い、崇り、呪術、死後世界、超自然、応報、墓参、初詣、祭り、神棚、仏壇、参拝、現世利益、神社、祈願、精神統一、勤行、布教、教団、宗教的思惟、伝道、教義、教典、回心、祈り、礼拝、心の平安、アニミズム、地獄、極楽、クリスチャン、供養、守護、盆、畏怖、霊性、葬式、ミサ、慰霊、追慕、奉納、地蔵、袈裟、護国神社、冥婚、安産、祀、法要、僧侶、鎮魂、慰霊、遺影、念珠、念誦、黙禱、焼香、読経、祭壇、説法、教典、経典、癒し、宗教的コーピング、斎事、浄土真宗、ホーリネス、〇〇尺度、スピリチュアル・コンベンション(すぴこん)、スピリチュアル・マーケット(スピマ)……

宗教性に関する論文の抽出

- 目的

- 高齢者を対象とした「宗教性」に関する研究は本当に少ないのかを確認する

- 方法

- 国立情報学研究所Ciniiにて検索（1999年～2016年）
- 「高齢」または「老年」を含み、かつ『宗教を心理学する』（松島他, 2016）に記載された「宗教性」に関連するかもしれない語を投入
- 先の検索で抽出した論文は除く
- 実証的研究のみを扱う

研究量の年次変化

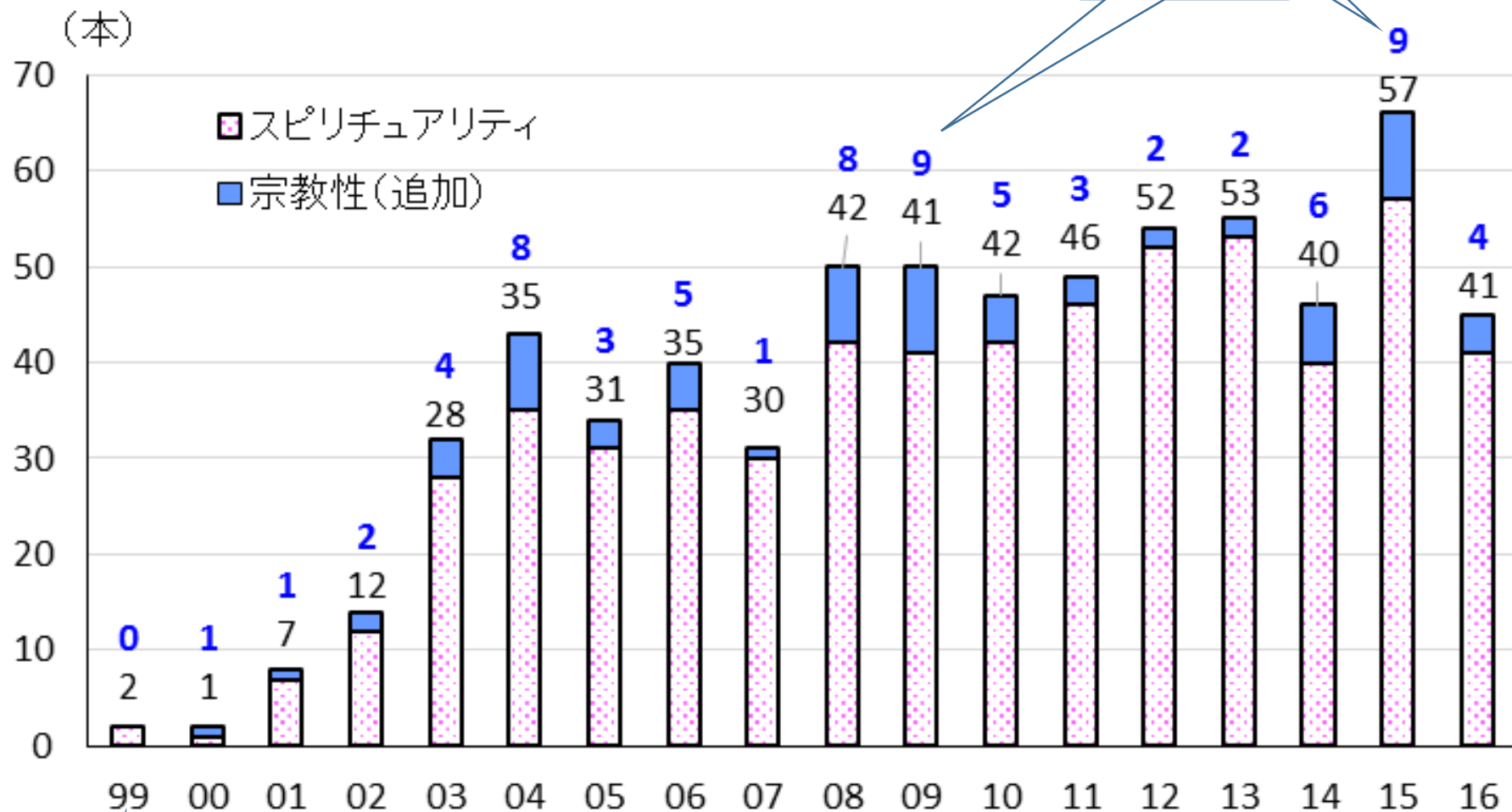


図3 「高齢・老年」で検出された論文数・学会発表数(改)

* 内容を確認できたもののみ追加しています

実証的研究の内容①

- 祭祀や葬送など、ある特殊な行事を現在も受け継いでいる地域の住民を対象とした研究はかなり多い
 - 九州地方の離島（浜崎・川元, 2015; 石井, 2016; 叶堂, 2010; 冨澤, 2009; 冨澤・Takahashi. 2010）
 - 伝統神事・祭（福島, 2008; 今村, 2008; 森山他, 2004）
- ある宗教組織に所属する高齢宗教者あるいは高齢信者を対象とした研究もなされている
 - 宗教者（川島, 2008）
 - 信者（川島, 2006; 松島・宮下, 2010, 2014; 大坪, 2002）

実証的研究の内容②

- 一般的な高齢者の宗教性(宗教意識・宗教行動)
そのものも少しずつ研究され始めている
 - 老年的超越(増井他, 2013; 中川他, 2011)
 - 信仰、自然信仰(則定他, 2009; 大浦, 2013)
 - 参拝、祈り(後藤, 2009; 板井, 2009; 森山他, 2015)
 - 日々の生活でのささやかな振る舞い(池田他, 2004; 伊牟田他, 2015; 當山他, 2003)
- 宗教性と他の要因との関係も
 - 精神的健康(増井他, 2014)
 - 年齢、人間関係(石原他, 2011)

【研究は進展しているのか？】

- 「宗教性」「スピリチュアリティ」研究は進展していると思われる

【今後の展望】

- 宗教性：「細部」に目を向けた研究の蓄積とその「集約」
 - 具体的な宗教意識・行動を扱う
- スピリチュアリティ：研究対象の広がり
 - 認知症（MCI）と診断された高齢者、福祉施設居住者、配偶者や子供と死別した高齢者、フレイル
- 宗教性／スピリチュアリティの概念的問題と、その理解の新たな枠組